

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 茅屋根葺き	(ふりがな) かややねふき	
地域独特の呼び方			
タイトル	茅葺き		
伝承地域	西会津町		
由 来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 近世後期まで遡れる		
内 容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>西会津町は近世、「山三郷」と呼ばれ屋根葺き職人が多く輩出した。現在の新郷地区から奥川に多く「会津茅手」と呼ばれた。</p> <p>屋根葺き職人になるには親方に弟子入りしたが、15、6歳頃からが多かった。村のほとんどが屋根葺き職人であったので父親から学ぶこともあった。住み込みと通いがあったが、休業期間は5年であった。弟子明け1年は御礼奉公として親方のもとで無報酬で働いた。仕事場はダンナバといいい中通りから浜通りにかけてであった。仕事場は親方によってそれぞれ得意先があり、だいたい決まっていた。1人の親方を中心に10人から20人で組織され、仕事場に向かう時は親方より仕事場の名前を知らされ、現地集合で得意先の宿に集合した。屋根職人は1年の半分は出稼ぎであった。春の彼岸に出て秋の彼岸にもどったが、春の田植えと盆、そして秋の稲刈りには家にいた。</p> <p>屋根葺きは全部を葺きかえるマルブキと補強のみのサシカヤがある。</p> <p>新築の場合、サスを組み棟木をあげるところまでは大工の仕事であり、それ以降の屋根の下地作りは屋根葺き職人の仕事になる。サスに細木や竹をヤナカに直行するタルキを結びつけ、タルキの上に割った竹を数本組み合わせエズリとし、タルキに直行するように結びつける。次が軒ヅケであり、ハダヅケ・シタツケ・メヌキ・クチガヤ・カエリ・オシガヤまでの軒の部分を葺く。次にタイラ(平)といいい屋根の広い面積の部分を葺く。エズリの上に新しいカヤを薄く延べ、その上に長い新茅、さらに短い新茅または古茅を根元が表面に出るようにのせ、中ノベといいい古茅や悪い新茅を入れながら厚さを調整する。中ノベの上に新茅を一握りのせガギで軽くたたいて根元をそろえ竹をのせタルキから縄をとって結ぶ。最後は棟の部分を葺くグシ取りである。棟にミノカヤをのせ、さらに杉皮をのせグシ取り用の棟木をのせる。屋根葺きの道具にはカヤを切る鋏、葺いた部分を叩いて仕上げるガギ棒、カヤを持ち上げるサシグイ、縄を切るナタがある。</p>		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	参考資料『西会津町史6巻民俗』(平成3年) 『茅葺きの文化を歩く』菅野康二(歴史春秋社 2007年)		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）	.....			※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（
	性別・年齢	男 ・ 女	歳		
	生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月 日 生	
	住所・電話	〒 電話			
	職 業				
団体	団体名（ふりがな）	.....			
	代表者氏名（ふりがな）	.....			
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	不明	年 月 日	
	問い合わせ先				

【フリーフォーマット】 ※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

参考文献



下地



軒ヅケ



完成したグシ

『茅葺きの文化を歩く』菅野康二

(歴史春秋社 2007年)

活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。